



この夏、妻の弟君が地元長岡にUターンを果たした。新型コロナウイルス禍の最中、海外からのご帰還で、2週間ほど関東のホテルに缶詰めにされてきたと、出だしから土産話が面白い。妻との付き合いが長いため10歳近く年の離れた彼のことは以前からよく知っていた。そんな彼がいつの間にか就活を終え、勤め先は海外だと聞いたとき、私は自分ごとのように誇らしく感じ応援した。同時に、彼がどんな道を歩むのかとても気になった。

私はといえば、Uターンして早6年。地元に戻って数年はなんだかんだ右往左往していたように思う。帰郷という一つの夢を叶えたのは良かったが次にやる事が決まっていなかった。振り返ってみると少し浅はかだったと思うこともあり、難しく考えずに行動したから戻ってこられたのだとも思う。とは言え、当時の自分は相当悩んでいたらしいが。

今となっては、忙殺されているわけではないが10月に子どもが生まれるし、新型コロナウイルス禍で縮小傾向ではあるが、地元を盛り上げる取り組みに参加して夢中になっている。良い意味で何か悶々とする暇などはない。

さて件の彼、さっぱりと見切りをつけて海外からUターンしてきた妻の弟君に話を戻そう。現在彼は求職中で、この新型コロナウイルス禍の折、これと思う仕事にはまだ出会えていないらしく、あっけらかんとしているようで悩んでもいるらしい。将来をじっくり見定めたいが、周囲からの心配の声も無視できないとのことだ。分かるなあとしみじみ思う。焦らず長い目で考えてもらいたい。夢は必ず見つかる。